



俳句 読売

矢島 渚男 選

踊りつつ家を出て来る風の盆

吉川市 人見 正

【評】盆踊の人が家の中から踊りながら出て来るといふ描写によって心の弾みまでも描かれている。もうじきその日が来る。過去の経験による作であろうが、秀句である。少しづつ地球を劣化させ出水

名取市 里村 直

【評】今年の猛暑や災害は深刻である。原句は「地球は劣化して」だったが、地球を人類が劣化させが正しい。対策は石油や石炭の化石燃料に出来るだけ頼らず、植物の緑を増やす地道な努力をする他はないと思う。父が生還しての我生敗戦日

羽曳野市 鎌田 武

【評】敗戦後、戦地から父が帰還し自分は生を受けたと客観した。島弁の飛び交ふバスや朝涼し

南あわじ市 魚谷佳代子

風入れる汗の肌着をさかしては

大阪市 農本 定成

三陸や鮫の心臓酢味噌和え

鹿嶋市 津田 正義

海の日や戦中語る元赤子

葛城市 二上 三六

八月や聞けば被爆の認定者

さいたま市 波切 虹洋

水盤に里芋の芽のほつと

神奈川県 新井たか志

平織の布目へくつき新豆腐

宇都宮市 大門とよ子

宇多喜代子 選

まつ白な子の手拭ひや夏祭

神奈川県 武 昭好

【評】夏祭に備え子に手拭いを新調した。絵柄のない真っ白な手拭いが初々しく、夏祭を迎えた子ども様の子が見えるようだ。藁ぞうり麦わらぼうし兄弟

さいたま市 長山 弘文

【評】かつてよく見かけた農村風景の「コマ」である。自然素材のぞうりも帽子も涼し気に見える。兄弟であるところが、微笑ましい。孫の誕生万緑の伯備線

志田市 谷村 康志

【評】待望の孫が誕生した。周囲の木々のみどりまで祝福しているように感じられる。伯備線を利用して孫に会いにゆく作者の気分がよく伝わる句。

諸語を背負ひて重し秋の蝶

八王子市 梅沢 春雄

碑の父と語りよ帰省かな

さいたま市 坂崎 守寿

蕨香を聞く間もこかし夏料理

旭市 神成田佳子

たっぷりと日焼をしたる帽子かな

前橋市 深沢 佳子

てっぺんを子供に分けてかき氷

飯能市 野村 茂子

寝付き良く寝起きも良く秋近し

東京都 鈴木 孝彦

若者の蕎麦すすむ首梅雨明け

習志野市 加古 隆男

正木ゆう子 選

閑空に近づき過ぎた夜釣かな

大東市 堀 志暉

【評】きらびやかな閑空空港と、夜の海に浮かぶ舟との対比が美しい句だが、中七が、読者をぐいと現場へ引き寄せる。轟音が響き、大きな飛行機の腹がすべりに迫ってきそう。もう痒くないほど刺され草むしり

防府市 光井加代子

【評】痒くないはずはないので、やけっぱちの誹りなのだろう。たくさん寄せられる草取り詠の中でも今回面白くて共感を呼ぶ一等賞。鯛の獲はるるやに鳴き移る

北本市 萩原 行博

【評】鯛が鳴きつつ木から木へ飛んだといふことだろうか。あの声が遠ざかれば、「獲られるように」という表現が、なるほどと肯かれる。飛び迷ふものの影あり大ひでり

越谷市 安居院半樹

シュンシュンと追はるる如き蟬の道

大津市 西岡 信夫

母といふことき法事の寺涼み

郡山市 寺田 秀雄

セッシヨンの煉瓦倉庫を霧へ出づ

東京都 田中 靖人

口吻を巻きてびたり揚羽蝶

佐賀市 栗林美津子

朝どりのオクラ産毛に陽のぬくみ

武蔵村山市 井上香津子

鉄色の面の腕なり茄子を探る

熊谷市 羽鳥 幸子

小澤 實 選

へパバインの睫毛の撥ねや涼新た

上尾市 松本 光弘

【評】このへパバインは、オドリ1・へパバインか。たしかに彼女の睫毛は長く、しっかりと撥ねていたと記憶している。きりっとした美貌の中心を、みごとくすくいとった。地蔵泥棒のこともちきり地蔵盆

高槻市 村松 謙

【評】地蔵を祭るべき地蔵盆であるのに、その地蔵が盗まれてしまったというのだ。泥棒が戻ってくればいいのだが。近年ありそうな事件。籠枕裏返ししたり熱持ては

東京都 川瀬 佳穂

【評】熱帯夜に頭を置いていると籠枕も熱を持つが、裏返すとさっと冷たくなる。籠枕の籠枕らしさを即物的に捉えていて、いい。鍵盤の汗を拭く役コンサート

宝塚市 広田 祝世

喜寿の子の相談に乗る生身魂

名古屋市 可知 豊親

鯉の骸骨とろ喰りふ雲の峰

柏市 佐藤 敏文

水鉄砲おれには本気らしい妻

下妻市 神部 貢

夕焼や五右衛門風呂に父の唄

茅ヶ崎市 清水 吞舟

駄菓子屋へ走る水菓の当り棒

市川市 鈴木 征四

夕焼や十三階のイタリアン

東大阪市 渡辺美智子

挑戦する高校生

俳句あれこれ 堀田季何 (俳人・歌人)

高校生が俳句の出来栄と鑑賞力を競い合う、第26回俳句甲子園全国大会が開催された。開成高校が史上初の四連覇を果たしたが、かつての堅牢な作風を取って捨て、新たな句材や措辞で試行錯誤する挑戦性が注目を浴びた。無論、定評のある鑑賞力は健在だった。いろいろいふづかつかつてゆく金亀子。 林光

カラビ子を入道雲へ掛けにゆ 鈴木丈太郎 準優勝の旭川東高校も、果敢に実験作を発表し、鋭いディベートで会場を沸かせた。天道はか非か自転車月へ突っ走る 濱田春樹

どうしても道民である 豊 小根楓子 作品もディベートも、全体的にレベルが上がっている印象がある。同時に、洗足学園や次の句を出した山形東高校など「新勢力」の善戦も話題になった。腹水に逆立つ鱗星月夜 渡辺悠月



題字デザイン・イラスト 福田美蘭